

## Ode to the Hamburger

### ハンバーガーの讃辞

作詞作曲 マイク・バス



お気に入りのハンバーガーショップに行くつもり、

今週の金曜日にしよう。

一回でできるだけたくさんのポテトフライを口に詰め込むぞ、

店員さんに頼んで、俺用に作ってもらおう。

ここで食べるか、持ち帰り、どちらでもいい。

ただ、コーラも忘れないで。

それとパイもあったら、はい、よろしくね。

少しくらい虫歯になっても我慢できるよ。

朝ご飯のためにつれて行ってくれ、昼ご飯のためにもつれて行ってくれ、何曜日でもいいからつれて行ってくれ。

月曜日から日曜日、ハンバーガーをいくつ食べるかに制限はつけない。

俺の言うことを聞いて、お願い。

大きくても小さくても、少なくても多くても、

俺はいつの季節でもハンバーガーを食べることができるんだ。

よく両親にしかられる。俺の凝り性のせいで怪獣になっちゃうぞと言われる。

もし両親が俺のベッドシートの中にしまいこんだ「怪獣バーガー」のことを知っていたら、どう思うかな。

目覚まし時計の裏でも、ごみ箱の中でも、机の下にある俺の足にも

CD プレイヤーの中の俺の普通の CD の代わりに入っているハンバーガーを見つけてしまうよ。

もし僕たちみんなにハンバーガーがあれば、

今日から永遠に

きっと平和になるでしょう、

でなければ、少なくとも油はたくさんあるでしょう。

では、みんなで祝福しよう！

今までのメニューの中で、最高のでき。

「いいぞ！いいぞ！」ハンバーガーよ、

君は立派な作品だ。

はい、どうぞ。このティッシュを使って！